

学習全体のテーマを知ろう

01

目標

- ・この講座の学習全体のテーマと展開を知る
- ・主体的な学習を進めるためのチーム学習と個人学習の意義を知る

読む

巻頭：

学習の流れ

学習の概要

この講座は普通の授業とは違って、講義を聴いたり、決まった答えを導くために課題を演習したりするというものではなく、学友と協力しながら主体的に学習し、さらにお互いに評価しあうことによって教育実践に求められる基礎的能力を向上することを目的としています。各 Unit の最初のページの左側に番号で示された資料をよく読んで、授業の特徴や流れを理解するよう努めましょう。

読む

01-1

01-2

チーム学習による主体的な学習の意義

学校教育では国語や算数・数学などの教科を教えればよいという時代は過ぎました。教育問題はますます複雑になっており、さらに地域社会との関係も重要になってきているため、チームで問題に取り組む必要性が高まっています。グループ学習では各自の役割分担は明確ではありませんが、チーム学習では明確な役割を分担しながら学習します。

確認する

01-3

自分のコミュニケーションタイプを知る

他人と気が合う、合わないというのは、コミュニケーションに対する価値観の違いが影響していることもあります。チームではさまざまな人が各々の特性を活かしながら相互に補い合っていきますが、そのときに、自分のコミュニケーションタイプと相手のタイプを知っておくことで、より柔軟にお互いを受け入れることができるでしょう。株式会社コーチ A が開発した簡易テストでコミュニケーションタイプを確認し、その結果を「私のプロフィール」に記録しましょう。



Web 提出

01-4

01-5

「私のプロフィール」と「イメージと感想の調査」を提出する

「私のプロフィール」はチーム作りの資料とする他に、チームに分かれたときの相互理解の資料となります。左で示した番号の資料に書き込んだあと、同じ内容を学習支援システムの入力フォームに沿って入力し、提出してください。

記入する

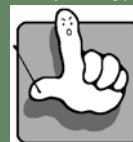
01-6

「チーム学習実践力の習得目標」を決める

実践力は他人から教えられるものではなく、自分から積極的に学習しなければ習得できません。つまり、実践力の習得そのものが「主体的な学習」です。他人に教えることが教師の職務であると考えがちですが、それよりも大切なことは実践力を体得するために自分から積極的に学習することなのです。この授業ではチーム学習の実践力の目標リストから自分が目標としたい5つを決めて、授業全体を通して到達度を確認しながら学習しましょう。

なぜチームで学ぶのか

内容理解



●● チーム学習の意義を理解するために読みます

1. 教育技術—人とコミュニケーションできる

- (1) 学校教育の問題は、ますます複雑になってきています。これまでのように教師一人がしっかりしていれば教育がうまくいくということはありませんでした。先輩や同僚と協力できる能力が求められるだけでなく、学校外のさまざまな人の協力や支援が必要になってきています。保護者や地域社会の人たち、他の学校の教員、ICT(情報通信技術)を活用したテレビ会議やインターネットを通じて知り合っている人など、さらには初対面の人ともコミュニケーションできる教育技術を習得することが大切です。
- (2) わが国では受験時代に他人と競争することを目標としています。しかし、社会生活では相手を選ばずに協力することが求められています。自分が好きになれない人、性格が合わない人とも協力しなければ仕事が進まないのです。誰とでも協調できる教育技術が大切です。協調して学ぶ面白さや難しさを体得できたなら、あなたの学校や大学、あるいは職場での学習は成功したといえるでしょう。

2. 教育技術—役割分担を果たすことができる

- (3) 複雑な問題は、一人では解決できません。チームとなって協力しなければ取り組めない問題は多いのです。チームの一員として自分の役割を果たすことが、問題を解決する早道ですが、そのときに自分とあまり関係のない問題についても役割を果たしていくことは、自分が問題に直面したときに他の人の協力が得られるだけでなく、自分の専門性を高めるためにも有効です。このようなチームにおける役割については、スポーツや演劇でははっきりしていて、どのポジションや役割にも無駄はありません。したがって、職場でもチームを組んで問題解決に取り組むときは、それぞれの役割分担を果たしていくことが大切なのです。
- (4) このことを逆の視点から見ると、自分の専門性や特技を伸ばそうとすると、チームの中で積極的に役割を果たしていくことです。得意な分野で活躍することも大切ですが、自分が不得意とするところをこの講座を通じていろいろと経験して伸ばすように努めましょう。役割を果たすことのできる能力が教育技術の基本です。

3. 教育技術—自分の経験から専門知識を学ぶことができる

- (5) 教育問題に正解はありません。問題解決にはさまざまな教育技術が必要ですが、技術には「もっといい方法がある」というのが解答です。したがって、他の人とチームを組んで学びながら問題解決に挑み、取り組みながら学ぶことが大切です。自分の経験から専門知識を学べる能力がこれからの変動社会での教育技術です。



チーム分けとチームの構成

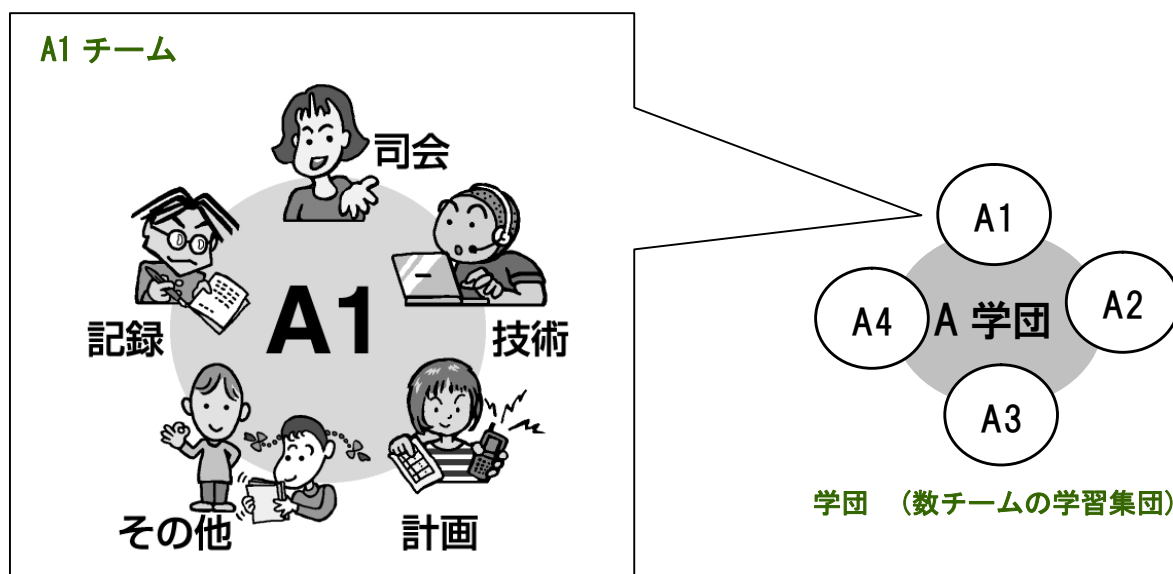
●● 希望の役割を決めるときに読みます

1. チーム分けの方針

初対面 職場でも社会活動でも、これまで一緒に活動したことのない初対面の人と協力して活動しなければならないことがしばしばあります。そのような時に求められるのが社会性です。そのような意味で、これまで友達でなかった人とチームで活動に取り掛かれることが大切です。

多様性 同じ大学生や職業人といってもそれぞれの経験はまちまちです。多様な人が集まって一つの成果を生み出すことを目指しているのでチーム内での仕事を分担しながら進める必要があります。

学 団 「私のプロフィール」を参考データとしてチームを分けます。受講者が多い場合は、全員が一つのクラスとして発表などをすると時間的な制約もあって十分なことができません。そこで、4チーム程度ずつの集団を作って他のチームからも学べるようにしています。これを学習集団あるいは学団と呼んでおきます。



2. チームでの役割分担

チーム学習の成功は、それぞれが分担している役割がうまく機能しているかどうかによって決まります。自分の役割をよく理解しましょう。人が集まっているのがグループですが、特定の役割で構成されているのがチームです。野球は特定の名前の選手が集まって構成されているのではなく、ピッチャーやファーストなどのポジションで構成されているのです。

(それぞれの役割についての説明は次ページ参照)



司会

役割

- 毎週取り組むことをメンバーに提示する。
- メンバーの意見を引き出す
- 発言しやすい雰囲気をつくる

この授業ではメンバー同士の討論で進められるので、自分から発言するより他のメンバーが発言しやすいような雰囲気を作るように努め、メンバーの発言を引き出してください。したがって、自分の意見を中心に進めないように気をつけてください(発言の少ない人でもいい意見をもっています)。また、チームの作品を作成する時は、時間配分を考慮して、作業内容をメンバーに「声かけ」してください。



技術

役割

- 学習支援システムの使用方法を伝授する
- 情報機器を駆使して資料をリサーチする

この授業では学習支援システムを使用して学習を進めます。中盤ではMicrosoftのWordやPowerPointを使用します。チームの中で、主にパソコン操作や学習支援システムの操作のインストラクターとなって、メンバーの技術的なつまづきを解消してください。

また、情報機器や図書館などを利用して、役立つ情報を収集してメンバーに提供してください。



記録整理

役割

- メモを取り、共有資源である学習の記録を学習支援システムの掲示板に書き込み続ける
- 記録から議論の食い違いを早期発見する

チーム学習が進むと、メンバーの理解にズレが生じたり、作業内容がわからない点が増えてきたりします。これを放っておかずに、常に「わからないと感じる点」や「メンバーの意見で食い違う点」のメモをとって、その解決をメンバーに呼びかけたり、話がそれたら軌道修正の必要性を指摘してください。(メモの内容は他のメンバーと情報を共有できるような気配りをするとよいでしょう)



計画管理

役割

- チームメンバーの参加状況と、記録整理がまとめた学習記録とをまとめて学習支援システムに提出する
- 指導者からの連絡を全員に回す

チームの作業をチームメンバーすべてが見通せるように、メンバーと相談してスケジュールを調整しながら計画書を作成してください。また、チームメンバーの参加状態を確認したり、連絡網の筆頭となって指導者からのお知らせや課題をメンバーに伝えるなど、メンバーの管理を担当してください。チームの学習にどのように工夫すればメンバーの学習がスムーズに進むかも積極的に提案してください。

?

その他

役割

- 自分たちに必要な役割を考える
 - ・お勧めできないもの 例：「補助」
 - ・お勧めできるもの 例：参考文献の検索

上記の4つの役割以外に、チーム学習を円滑に進める上で、なくてはならないと考える役割を必要に応じて開発してください。ただし、「補助」のような内容が曖昧なものは、何も貢献できないか何でも押し付けられるかのどちらかですので、お勧めできません。

コミュニケーションタイプの調査

参考資料



●● チーム分けをするときのデータとなります

他人を相手に仕事をしているときやサークル活動でチームをまとめるときに、「コミュニケーションの難しさ」を経験することがあります。この授業では、長期にわたって自分とは異なった経験をしている人とチームを組んで学習をします。その過程でお互いにコミュニケーションをとりながら創造的な活動を行うことを体験します。そこで、皆さんのコミュニケーションスタイルの傾向をテストで調べ、その結果をチーム学習の中のコミュニケーションに活かしてみてください。

1. コミュニケーションの4つのスタイル

株式会社コーチ・A 取締役副社長の鈴木義幸氏は、人間のコミュニケーションスタイルは4つのタイプに整理できると述べています。鈴木氏によると、はっきりと分けることはできないところもありますが、傾向を知る手がかりになるとして、次の4タイプを挙げています。

コントローラー 自己主張が強く感情表出が低い

行動的で、自分が思った通りに物事を進めることを好む。
結果を重視し、単刀直入にものを言う。
他人から指示されることが何よりも嫌い。

プロモーター 自己主張が強く感情表出が高い

活気あることをするのが好み、自発的でテンションが高い。
オリジナルなアイデアを大切にすることが、あきっぽい。
細かいことはあまり気に留めない。

サポーター 自己主張が弱く感情表出が高い

人を援助することを好み、協力関係を大事にする。
人から認めてもらいたいという欲求が強い。
自分の感情は抑えがちなため、うっせきがたまると周囲を驚かせる行動にでる。

アナライザー 自己主張が弱く感情表出が低い

情報を分析して計画を立ててから行動するため、とても慎重で感情的ではない。
物事を客観的に捉えるのが得意。
完全主義的なところがあり、ミスを嫌う。

さて、あなたはどのタイプの傾向が強いですでしょうか。

鈴木氏は、タイプによって効果的な褒め方や仕事の依頼の仕方も異なるので、これらのタイプを正しく理解することが、人間関係を成功させる秘訣であると説明しています。

さっそく裏のテストに取り組んでみてください。

今回紹介するのは「コミュニケーションスタイル・インベントリー」というものの簡易版で、株式会社コーチ A より特別に使用許可を得ております。

2. コミュニケーションスタイル・インベントリー(簡易版)

1 = よくあてはまる 2 = あてはまる 3 = あまりあてはまらない 4 = あてはまらない

- | | |
|-----------------------------------|---------|
| 1) 自己主張することが下手だと思う | 1 2 3 4 |
| 2) 常に未来に対して情熱をもっているほうだ | 1 2 3 4 |
| 3) 他人のためにしたことを感謝されないと悔しく思うことがよくある | 1 2 3 4 |
| 4) 嫌なことは嫌と、はっきり言える | 1 2 3 4 |
| 5) 人にはなかなか気を許さない | 1 2 3 4 |
| 6) 人から楽しいとよく言われる | 1 2 3 4 |
| 7) 短い時間にできるだけ多くのことをしようとする | 1 2 3 4 |
| 8) 失敗しても立ち直りが早い | 1 2 3 4 |
| 9) 人からもものを頼まれるとなかなかノーと言えない | 1 2 3 4 |
| 10) たくさんの情報を検討してから決断をください | 1 2 3 4 |
| 11) 人の話を聞くことよりも自分が話していることのほうが多い | 1 2 3 4 |
| 12) どちらかという人見知りするほうだ | 1 2 3 4 |
| 13) 自分と他人をよく比較する | 1 2 3 4 |
| 14) 変化に強く適応力がある | 1 2 3 4 |
| 15) 何事も自分の感情を表現することが苦手だ | 1 2 3 4 |
| 16) 相手の好き嫌いに関わらず、人の世話をしてしまうほうだ | 1 2 3 4 |
| 17) 自分が思ったことはストレートに言う | 1 2 3 4 |
| 18) 仕事の出来栄について人から認められたい | 1 2 3 4 |
| 19) 競争心が強い | 1 2 3 4 |
| 20) 何事でも完全にしないと気がすまない | 1 2 3 4 |

式にしたがってそれぞれの数字を当てはめて答えを出します。例えばコントローラーの点数を計算する場合、設問4が2点、設問7が2点、設問17が2点、設問19が3点、設問20が1点ならば、 $11 - (2 + 2 + 2 + 3 + 1) = 1$ でコントローラーの点数は1ということになります。

コントローラーの点数

= $11 -$ (設問 4・7・17・19・20 で丸をつけた数字の合計点) (点)

プロモーターの点数

= $12 -$ (設問 2・6・8・11・14 で丸をつけた数字の合計点) (点)

サポーターの点数

= $12 -$ (設問 3・9・13・16・18 で丸をつけた数字の合計点) (点)

アナライザーの点数

= $13 -$ (設問 1・5・10・12・15 で丸をつけた数字の合計点) (点)

出典：鈴木義幸 「コーチングから生まれた熱いビジネスチームをつくる4つのタイプ」

株式会社ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2003

※「4つのタイプ分け」に関する著作権は株式会社コーチ・Aに帰属します。

★それぞれのタイプに相応しい褒め方や動機付けや反論の方法について詳しくは上記の文献を参照してください。

私のプロフィール

Web 提出


- 一旦このシートに記入した後、学習支援システムに入力して提出してください

ふりがな	性別	年齢	居住 県	市・郡・町
氏名				
学籍番号	担当教科	または	所属学科	所属機関

■ 取得希望免許（校種と担当教科を1つだけ入力してください） ※複数の場合はどれか1つを選択

①小学校	②中学校（教科	）	③高等学校（教科	）
④養護学校	⑤その他（			

■ 情報技術（それぞれの項目で該当するものを1つだけ選んでください）

インターネット	よく使っている	ときどき使っている	使っていない
ケータイ	よく使っている	ときどき使っている	使っていない
学習支援システム	利用したことがある	利用したが理解できない	今回ははじめて

■ メンバーの一人ひとりがそれぞれのポジションを持ってチームに貢献していきます。
あなたはチームの中で、どの役割(ポジション)を担うことができますか。(資料01-2参照)

司会係： チーム学習の進行に責任をもち、討議が円滑になるように配慮します。 技術係： メンバーがコンピュータやインターネットなどを使う時に支援します。 記録整理係： 討議の内容を記録しながら、討議の円滑な進行を確認します。 計画管理係： メンバーの連絡先や学習計画を管理します。連絡網の筆頭です。			
第1希望		第2希望	

■ この授業では主体的な学習が求められます。最終成果を100点満点で評価するとき、あなたはどの位の成果を期待して参加しますか。該当するもの一つだけを選択してください。
 90点台 80点台 70点台 60点台

■ 01-3 コミュニケーションタイプテストでの得点を記入してください。

コントローラー	()点	プロモーター	()点
アナライザー	()点	サポーター	()点

■ チームで学ぶということについて、近いものを一つだけ選んでください。
 経験がある。得意である。 未経験。頑張ろうと思う。 なんとも思わない。
 経験がある。苦手。 未経験。本音を言うと面倒くさそう。

■ 自分の長所で紹介したいこと

イメージと感想の調査

Web 提出



- 一旦このシートに記入した後、学習支援システムに入力して提出してください

学籍番号() 氏名()

つぎの項目について、感じていること、考えることなど何でも構わないので自由に書いてください。

	■ 中学校	■ 高校
学校の イメージ	()のようだ なぜなら・・・	()のようだ なぜなら・・・
授業の イメージ	()のようだ なぜなら・・・	()のようだ なぜなら・・・
先生の イメージ	()のようだ なぜなら・・・	()のようだ なぜなら・・・

■ 「人と学習や仕事をする時のマナーとは？」と聞かれて思い浮かぶこと

■ 「主体的な学びとは？」と聞かれて思い浮かぶこと

考える



チーム学習実践力の習得目標

- 指導者への報告ではなく、学習を進める上での自分の実践力の確認です

学籍番号() 氏名()

チーム学習実践力の内容

これからの教師には、教科についての知識だけでなく、教育において当面する問題を解決するなどの実践力をもつことが望まれています。そこでチーム学習の実践力を次のように整理しました。

以下にあなたのチーム学習実践力を評価し、今後の努力目標を明確にしましょう。

■ やりかた ■

- ①現在：表の各能力における現在の自分の状態を数字で評価しましょう。
- ②課題：現在の数値が1や2のもので向上させたいものを5つ選択して✓をつけましょう
- ③目標：講義終了時のあなたの能力の状態がどのようになってほしいですか。①と同じく4段階で記入してください。

(4…はいできます 3…少しできます 2…少し自信がないです 1…いいえできません)

チーム学習の実践力		① 現状	② 課題	③ 目標
例	自分をコントロールして冷静に振舞える	1	・	4
1	何事でも最後まで達成しようとする			
2	何事にも積極的に取り組める			
3	何事にも自信をもって取り組める			
4	物事を計画的に進めることができる			
5	物事を分析的に考えることができる			
6	物事を概念的あるいは抽象的に考えられる			
7	効率よく的を射た情報を収集することができる			
8	他の人を理解するように努めることができる			
9	何の苦痛もなく他人とコミュニケーションをとることができる			
10	他の人に影響を与えるように説得することができる			
11	チームワークを尊重しチームのために貢献できる			
12	まわりの状況を冷静に認識することができる			
13	自分をコントロールして冷静に振舞える			
14				
15				

※1～13までの項目にあてはまるものがなければ、14と15に追加することができます。